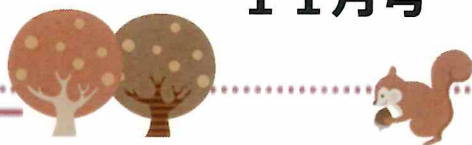


図書館だより

11月号

令和7年11月4日
港区立青山中学校
校長 佐々木希久子
学校図書館司書 三島裕美
学校図書館支援員 武田優子
桑畑恵美
小川順子



木々の葉が色づき、秋風が心地よい季節になりました。
運動会や音楽交歓会など、多くの学校行事を過ごしてきたと思います。行事を通じて感じた仲間とのつながりや努力の思い出を、ぜひ本の世界でも広げてみませんか。図書館には、青春を描いた小説や心に響く詩、物語に引き込まれるような新刊もそろっています。少し疲れた時や気分を変えたいとき、図書館でゆっくりページをめくってみてください。きっと、新しい世界が広がると思います。

秋の読書週間 10/27~11/9

今年度の標語は「こころとあたまの、深呼吸。」です

<今月の特集展示>

『アスリートたち』

現在、大谷翔平選手がアメリカのメジャーリーグで大活躍しています。世界での日本人の活躍は、私たちに多くの希望や勇気を与えてくれています。

今月は、そんな世界の舞台で活躍するアスリートの本を展示しました。



<世界の国旗の数は？>

1年生から「国旗の数はいくつですか？」と質問を受けました。まずは図書館の本を調べます。夏休みに届いたばかりの『朝日ジュニア学習年鑑2025』P.219をチェック。国連加盟国193か国、日本政府承認の国連非加盟国を加えた197か国が紹介されていますが、巻末の国旗一覧には200の国旗が。また、外務省HPにある世界の国旗一覧は196…??さて、いくつが正解なのか知りたい人は、図書館へどうぞ！！

図書委員会 イベントのお知らせ

**後期図書委員会がはじまり、イベントの準備が
着々と進行中です！**

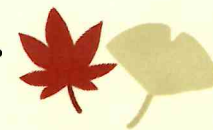
<イベント内容>

- ・本を借ります。
- ・本を返す時に図書委員にひとこと感想を伝えてください。
- ・そのひとことに、図書委員が心を動かされたら…ぐっと来たら…いいなと思ったら…↓↓↓

**青中のよいところを図書委員が写真におさめた、図書委員会
オリジナルしおりをプレゼント！！**

<イベント実施期間>

11月21日(金)にスタートします。



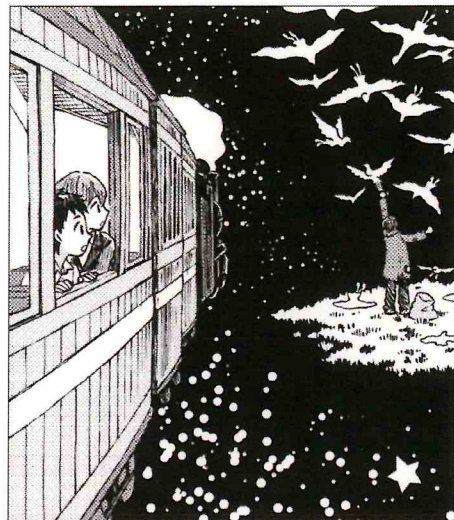
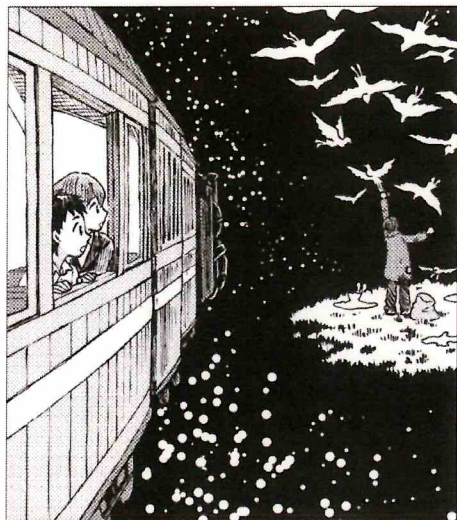
<お願い>

図書委員が、しおり作成のため青中の絶景や隠れた名所などを撮影します。
ご迷惑にならないようにしますのでご協力をお願いします。

名作まちがいさがし

『銀河鉄道の夜』

宮沢賢治



激ムズポイントのヒント：車体（板）

ジョバンニとカムパネルラが列車の窓の外を見ると、鳥捕りが天の川の河原に立っていました。男はまるで雪が降るように、さががたくさん舞い降りてくるところを、片っ端から捕まえて、布袋の中に入れていました。

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。

少年ジョバンニは、家庭の事情から孤独な日々を過ごしていました。星祭りの夜、夜空を見上げてみると、いつのまにか宇宙を走る不思議な列車に乗っていました。友人のカムパネルラも乗っていて、二人は白鳥の停車場やアルビレオの観測所など、美しい銀河を巡ります。旅の途中、宇宙を飛ぶ鳥を捕る男や、氷山にぶつかった船に乗っていたという青年と姉弟など、様々な人が列車に乗ってきますが、最後には二人きりに。ジョバンニが、カムパネルラに「どこまで

でも一緒に「行く」と言った矢先、彼がいなくなってしまう。岩手県生まれの童話作家、詩人の宮沢賢治（一八九六―一九三三年）の中編童話です。主人公は幻想的な銀河鉄道の旅を通じて、「ほんとうの幸」とは何かを考え、生きる意味を悟ります。未定稿のまま遺された作品で、多くの造語が使われており、独自の世界観が世代を超えて人々を魅了します。賢治の童話は、ほかに「注文の多い料理店」、「風の又三郎」、「猫の事務所」など、多数あります。「雨ニモマケズ」の詩が有名です。

※『銀河鉄道の夜』は、新潮社やKADOKAWAなど、各社から発行されています。青空文庫でも読めます。

十一月のおすすめ本

『ヤモリの指から不思議なテープ』504 マ

石田秀輝/監修 松田素子・江口絵理/文 西澤真樹子/絵 （アリス館）

ヤモリの指から
不思議なテープ



以前、来日してカブトムシの羽を研究しているという中国人留学生の話をきいたことがあります。カブトムシの大きな体でも飛べる薄い羽、一瞬で広げたりしまったりできるその「構造」を研究し、私たちの暮らしに役立てたいと言っていました。この本は、地球上で長い年月をかけて試され変化し工夫された「自然界のしくみ」が、研究の末にいまの私たちの生活に大いに役立っていることを、具体的な例をあげて教えてくれます。朝読書におすすめです。（武田）

『まなの本棚』019 ア

芦田愛菜/著 （小学館）



天才子役として知られ、現在は女優として活躍する芦田愛菜さんが中学3年生の時に出版した本です。「年間100冊以上本を読む」愛菜さん。ジャンルも幅広く古典文学から児童書、小説、エッセイ、海外文学まで本をおすすめしています。ノーベル医学生理学賞を受賞した山中伸弥教授や作家の辻村深月さんとの対談も、知的好奇心にあふれていて、楽しく読めます。「今すぐ本が読みたい!」と思わせてくれる1冊です。（桑畑）

『成瀬は信じた道をいく』913 ミ

宮島未奈/著 （新潮社）



前回本屋大賞受賞作『成瀬は天下を取りに行く』の続編である本作は、主人公の成瀬あかりという女の子が自分の考えを大事にして、真っ直ぐに生きていくお話です。周りの人とちょっと違っていても怖がらずに行動する彼女の姿はとても清々しく元気をもらえると同時に、自分らしく生きることの大切さを教えてくれます。友達との関わりもあたたかくて、心がほっこりする1冊です。（小川）

『僕には鳥の言葉がわかる』488 ス

鈴木俊貴/著 （小学館）



「言葉を話すのは人間だけ」とされていた常識をくつがえし、「シジュウカラは文を作っている」ことを世界で初めて解明した研究者による科学エッセイ。作者の「シジュウカラ愛」はまっすぐで深く、どんな困難にも負けません。鳥にも言葉があることを知ることは、単に鳥の生態が解るだけではなく、身の周りに自分の知らなかった世界が広がることも意味しています。皆さんもこの本を読んで、新しい世界を旅してください。（三島）